青山ゆたか 6月20日 一般質問 要旨

国際感覚を身につけた人材育成を図っていく

国際交流について

質問 「他を知り、己を知る」真の国際人を育成しなければならない。市の今後の国際交流事業は〝国際感覚を身につけた人材育成〟という観点から取り組まれようとしているのか。

答弁 地域への愛着と社会貢献の意識を育むためにも、そのような視点を重視しながら、関係機関との連携や市民との協働により各種事業の展開を図る。

質問 評価の高い国際教養大の留学生や在学生との交流も必要だと思うが。

答弁 国際教養大はイメージとしては湧きやすい。それに限らず、県内在住の多くの外国人との交流を通じて学んでいきたい。在学生との交流は国際感覚を身につけようとがんばっている日本人だから参考になるかもしれない。

質問 昨年度で終了した「大森中学校生徒海外研修事業」は大変有効な事業だったと思うが、市長の評価は？

答弁 感性豊かな中学生にとって、自らの個性を磨く上で有益な交流事業だった。

質問 この事業を再開させ、応募対象を市内全中学生に広げる考えはないか。

答弁 重要性は理解しており、思いはあったが予算の制約上、そこまでいけていない状況にある。24年度には横手明峰中の開校も控えているので、教育委員会や現場の声を聞いた上で今一度、事業の意義を総括しながら協議していきたい。

▲大森中学校生徒海外研修事業

学校図書館活性化で、児童・生徒の〝本への関心〟を高めていく

学校図書館について

質問 年二回開催される「横手市学校図書館研修会」で、どのような成果を期待しているのか。

答弁 学校図書館の機能強化・活性化をもとに、児童・生徒の本への関心を高め、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

質問 ネットワークづくりのためにも、司書補助員同士の研修会はもっと頻繁に開かれるべきだ。

▲横手市学校図書館研修会

答弁 年2回にこだわらず、随時の集まりが可能であれば考えていきたい。

▲朝倉小の学校図書館

質問 児童・生徒の〝本を通じた学び〟には専門の司書補助員配置が必要だ。学校統合終了後の28年度時点での配置計画は？

答弁 学校統合により、非常勤職員全体の人数や、職務内容について再検討する必要性が出てきた。再配置計画の中で検討していきたい。

質問 「住民生活に光をそそぐ交付金」は来年度、予算措置が終了する。この交付金で今年増員になった司書補助員が一年でいなくなるのでは効果が薄いと思うのだが、どうなるのか。

答弁 何ともいえないが、調整を図って確保したい。